

小学3年1組 図画工作科学習指導案

指導者 三 桐 撰 夫

色や形から見立てたり、見立てからつかんだイメージをもとに組み合わせたりしながら、立体に表す工作活動において、自分で感じた思いを語り合う場を設定することで、イメージを言語化させて価値を共有することは、新たな発想や多様な表現を生み出すことに効果があったか。

1 題材名 ダンボールブロックをつなげよう ～「これ、なあんだ。」見立てた形から広がる世界～

2 授業の構想

(1) 1学期の「色とりどりの小鳥」の学習において、小鳥のねがいや感じたイメージをもとに色を選び、飾り付ける活動後、次のようなふりかえりがあった。

白い鳥を色紙で色をつけたり、羽を、いろんなほうこうにむけてつけたりしました。わたしは、きいろと赤とオレンジ色がすきだから、羽はこの色にしました。それで、他の友だちのを見ていたら、にじ色の鳥とか、ふくを着ている鳥や、王かんをもっている鳥がいて、みんな、すごくくふうしていて、すごいなあと思いました。

今日は鳥の形の画用紙に色紙をつけることでした。ぼくは3色しか使わなかったけど、けっこううまくできたのでうれしかったです。けど、何かが物足りなかったです。もうちょっとやりたかったところで終わってしまったのでちょっとかなしかったです。今度は、できなかったところをうめておきたいです。しておきたいところもあったけど、すごく楽しかったです。

前者のふりかえりは、自分の感性を働かせて試行錯誤しながらつくりたいものに近づくと共に、友だちの表し方にも興味をもち、自分とは異なるよさを認めようとしていることが分かる。後者のふりかえりでは、自分が選択した色をもとに工夫できたことを認めながら、見たり考えたりする中で、表し方について自己評価をし、次への取り組みの意欲を高めていることが分かる。

本学級の児童は、自分なりに考えたりイメージしたりして、意欲的に取り組み楽しむことができる。友だちの表し方に素直に感動したり、がんばりを認めたりする姿もよく見られる。他者のよさを認めながらも、安易に模倣をしようとはせず、自分独自の表し方を追求する姿勢がある。ただ、先の子どものふりかえりにも見られるように、「ふく」や「王かん」のよさについて具体的に説明していなかったり、「何がどのように」うまくできたのか、「何が」できなくて、「何をどんなふう」しておきたいのかを、十分に表現できていなかったりする実態がある。自分の活動をはっきりとつかみ取り、表現のよさを見つめる上で不十分である。さらに、せっかく他者の表現のよさに気付いても、きちんと取り上げなかったり、一部の親しい友だちと軽く印象に触れて終わったりすることも多く、他者との関わりによる学びや自分の内面での学びがたがらず、結果として表現の深まりや広がりを得る機会を失っている傾向もうかがえる。したがって、色や形に関わる言葉や意図や理由を自分なりに表す言葉に着目し、自分の表したいことや仲間が表そうとしていることを感じ取り、伝え合うような関わりを設定することが、本学級の児童の感性を高め、表現の幅を豊かにするためにつけていくべき力につながると考えられる。

(2) 本題材は、第3・4学年の目標(2)、内容A表現(1)イ、ウ、A表現(2)、B鑑賞(1)イ、そして〔共通事項〕(1)ア、イに即している。また、工作に表す活動としては素材の特性や加工技能の面で、中学校技術科における第1学年「A材料と加工に関する技術(1)」と関連が深い。用具や材料に十分に慣れ親しみ、以降、新たに会うものについて適切に扱うことができるようにする上でも大切に考えたい活動である。

本題材では、貼り合わせることで厚みの出たダンボールを、糸のこぎりで無作為な形に切り出したブ

ロック状の立体を素材に用いる。不思議な形のダンボールブロックは、手触りであるとか、身近にあるという点で親しみがあるにも関わらず、見立てから自由に連想し、イメージを拡げることができるものである。また、見る人や見方によって幾通りにもイメージを持つことができる。貼り合わせる、棒を突き刺す、着色する、はがす、切る、削り取るなど、加工の幅がとても広く、扱いも容易である。また、質感や量感という点で木材に似た性質を併せ持つ。立体に表す工作の活動や木材につながる段階的素材として有効であると考えられる。

本題材では形の面白さから自分なりに見立てたことをもとに、仲間の感じ方やとらえ方と自分の感じたことについて言葉を用いて交流させることで、自分がつくりたいものを思い付いたり、別の可能性を発見したり、自分の表現のよさを価値づけられる中で、製作の構想を立てていく活動の構成になっている。どの学習活動でも、自分の感じたことを柱に考えを述べ、相手に分かるように形の特徴を指し示しながら説明をする場面を設定している。好奇心旺盛で、既成の概念にとらわれずに豊かに発想する中学年の児童にとって、また、他者との関わりの中で思いを語り合い発想を広げていく初等部後期ブロックの児童の特徴において、上記のねらいを達成していくために効果的な学習活動が期待できる。

(3) 第1次では、素材に出会い、十分に手や体の感覚を働かせて形をとらえ、見立てからイメージをふくらませるための活動を行う。具体的には見立てた形をもとにしりとり遊びや連想ゲームを行う。学習の過程で形を絵に描き取り、描き加えたり色をつけたりすることも計画している。まず、児童に活動をゆだね、様々な感じ方やとらえ方があることに気付かせたい。そして、友だちの見立ての面白さを認め合い、自分のイメージについて、しりとり遊びの言葉と形を手がかりに伝え合うことが求められる展開になるように仕掛ける。自分の感性に従いイメージしたこと、言葉の持つ印象が結びつくことで、また、友だちとの共同思考により、さらに発想が広がり、つくりたいものへの意欲も高まるだろう。

第2次では、形から見立てたことやイメージしたことをもとに、複数のブロックを組み合わせたたりつなげたりする活動を行う。試行錯誤をくり返ししながら、自分がつくりたいものや立体に表したいことへ発想を広げ構想を練っていく。気付いたことや感じたことを友だちと分かち合い、形の面白さを十分に味わいながら楽しめるように関わりたい。この時、色を意識することや作業に必要な用具を選択できるような活動の機会を設定する。その活動をより効果的に促す環境設定として、使用できそうな道具や素材を吟味して揃えておきたい。

第3次では、試行錯誤の活動を経て固めたイメージを仲間と共有したり、他者の感じ方の違いから新しい表現の可能性を見つけたり、自分の表現のよさを再認識したりする活動を行う。「これ、なあんだ。」を合い言葉に、それぞれの立体について感じたことをもとに意見を交換し合う。どうしてそのように感じたのか、自分の感じ方はどうだったのかをしっかりと交流させるようにする。この第3次が本時の学習活動に当たる。

本時では、まず、「これ、なあんだ。」という問いかけから始まり、例として取り上げた一つの作品について全員で鑑賞し見解を伝え合う。「どのように感じたのか」「なぜ、そう思ったのか」「どこからそう感じたのか」。形の組合せから感じられるイメージ、色や形の特徴を言葉にする。そういった児童の言葉と言葉をつないでいくことを大切にしたい。これを活動のモデルとしてそれぞれの児童におろし、友だち同士で「これ、なあんだ。」の伝え合いを展開させる。鑑賞活動の前後でイメージがどのように変化したかなど、ワークシートを用いて文章化し、自分の考えを確認したり新たな構想をつかんだりすることで、「もっとよくしたい。」「今度はこんな工夫をしたい。」という意欲を喚起していきたい。

学習の後半から終末にかけては、新たにつかんだイメージや構想を持って素材と向き合いながら、次時につながるようにふりかえりをしたい。

第4次では十分に拡げられた発想と構想をもとに作品として完成するまでの活動を展開する。用具を安全に扱い、材料のよさを活かせるような関わりをこの活動の中で重視する。児童のアイデアや構想は常に更新され続けていくものだと考える。

3 活動展開計画(全10時間 本時6/10)

次	主な学習活動・内容	時	具体的な学習活動
1	「かたち」しりとり遊びをしよう 「何に見えるかな」	1～2	・ダンボールブロックの形を様々な角度から見て、いろいろな見立てを行い、しりとり遊びの言葉に基づいて、イメージにあった形を探し出し、見立てたことについて絵や言葉で説明する。
2	面白い形を組み合わせてみよう 「何が生まれるかな」	3～5	・複数のダンボールブロックを重ねたり棒材でつないだりして試行錯誤し、組合せによる面白さから発想し、つくりたいものを見つけ出す。
3	「これ、なあんだ。」見つけたこと感じたことを伝え合おう	⑥	・構成された立体物から連想するものやことについて、形の特徴や組合せの様子をもとに言葉で伝え合う。 ・自分の意図および考えと友だちの見解を比較しながら、形の可能性や発想の広がりを見つけ出し、自分の表し方の参考にする。
4	組み合わせた形を生かして作品を作ろう	7～10	・組み合わせた形の特徴から構想したことをもとに、素材の特徴やその他材料との組合せを生かして楽しく表現し、作品に仕上げる。

4 評価計画

次	時	造形への関心意欲態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	共通事項	図画工作科における思考力・判断力・表現力
1	1 2	ダンボールブロックの形のよさや面白さを感じようとしている。	形から見立てたことと連想する言葉をもとに考えを拡げている。	形を描き写したり絵を描き加えたりして形を見取っている。	様々な角度から形の特徴を味わい、見つけたことを分かりやすく伝えている。	自分の感覚や活動を通して、形の感じをとらえ、自分のイメージをもっている。	形の感じやイメージをもとに言葉と関連づけ、しりとり遊びの条件の下で、課題を解決しようとする操作活動を通して考えている。
2	3 4 5	ダンボールブロックの組合せの面白さを感じようとしている。 友達の表し方に関心をもって見たり聞いたりして楽しんでいる。	形や組合せの様子を味わいながらつくりたいことやよりよい組合せ方や表したいことを見付け出している。	材料の特徴を感じながら自分らしい表現にこだわって、考えに沿ってよりよい組合せをつくり出している。	友達の組合せ方やその意図の面白さを見つつけたり、自分の組合せ方について自信を持って紹介したりしている。	自分の感覚や活動を通して、形の感じをとらえ、自分のイメージをもっている。	形の感じや組合せからできた様子のイメージをもとに表したいことを見つけ出し、自分や他者の考えを生かしながらよりよい組合せ方や表したいことを見つけ出す目的の下で、考え活動し、工夫して表そうとしている。
3	⑥	組み上げられた立体物の特徴や形の特徴から面白さや意図について考えようとしている。	見つけたことや感じたことをもとに、表したいことや主題について形や材料を見直し、よさを構想に取り入れ活かそうと考えている。		形の特徴から気が付いたり感じたりしたことについて、理由をつけて友達と話したり、協同的に感じたり考えようとしたりしている。	自分の思いや経験などを手がかりにして、組み合わせた形の特徴からイメージをもっている。	友達と造形的な感じ方についてコミュニケーションを行い、共同的な造形活動をつくり出そうとしている。形の特徴について相手に伝えるために適した言葉を選び出し説明しようとしている。
4	7 8 9 10	自分らしい表現になるように、つくりたいものの構想に沿って、工夫しながら製作しようとしている。	見つけたことや感じたことにもとに、表したいことや主題について形や材料を見直し、よさを構想に取り入れ活かそうと考えている。	材料の形の特徴を感じながら、自分らしい表現にこだわって着色や飾り付けをしている。	自分や友達の表現の面白さを味わいながら、改善点やよさに気付いたり友達に伝えたりしている。	表現の意図や構想に応じて、自分のイメージと色や形との関係を考えている。	表現の目的達成のために、材料の形や組合せを発展的に活かせるよう、加工方法や必要な道具や画材などを選択し、製作意図に応じて活用している。

5 本時の学習

(1) ねらい

- ・自分や友達立体物を見て、自分なりに感じたことやイメージしたことについて、形の特徴や組合せによる構成の様子を表す言葉を用いながら、互いの考えを伝え合うことができる。
- ・感じ方の違いや互いの表し方の特徴やよさに気付くことにより、発想の転換をしたり表し方の可能性を拡げたりすることができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価
<p>1. 前時をふりかえり、本時の活動の見直しをもつ。</p> <p>2. 「3分間 looking」 ひとつの作品をみんなで見て、面白さやよさを伝え合う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「これ、なあんだ。」みんなの見方や感じ方を聞いて、イメージをひろげよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の形が生き物のように見えるよ。どこでそう思ったかというところ。 ・この形の使い方がすてきだと思います。その理由は… <p>3. 「見てみてタイム ほめほめタイム」 自分や仲間の作品について相互評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私が好きな所は…。理由は…。 ・ぼくが考えていたことと、友だちの考えは違ってはいたけど、どちらもおもしろいな。 <p>4. 新しい発見・工夫点・改善点を記録に残す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっとたくさん色を使って明るい感じにしたいな。 ・別の部品に取り替えたくなくなった。色も考え直したいな。 <p>5. ふりかえりカードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちにほめてもらったのでうれしかった。新しいアイデアを思いついた。 ・自分と友だちの考えでどちらがいいか迷った。 	<p>教師の支援と願い・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時につかんだ表現しようとしていることについて、ワークシートを用いて確認する。 ・多様な見方や感じ方を言葉で伝え合うことができるように、鑑賞のモデルタイプを示す。 <p>根拠や理由を伴う意見のよさを認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・角度によって見え方が変わる立体物の面白さを、視点を変えるように示すことで十分に味わう。 ・部分的にあるいは全体的に作品をとらえ、イメージを喚起する形や色の特徴に気づくようにする。 ・理由や根拠を明らかにするように促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価の観点（思考力・表現力）</p> <p>形の特徴やイメージしたことについて、相手に伝えるために理由を付けて話したり、協同的に考えたりしている。</p> <p style="text-align: right;">【評価方法 観察、発表】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・事前の記録と比較しながら、表現の拡がりや深まりを意識できるようにする。 ・文章だけでなく、画像、図、イラスト、記号で視覚的に表すことも有効であることを伝える。 ・新たなアイデアを獲得するなど、コミュニケーションしたことが有効であったかを問い、そのよさを確認できるようにする。